

運営に関する計画

令和7年度

大阪市立清水丘小学校

1 学校運営の中期目標

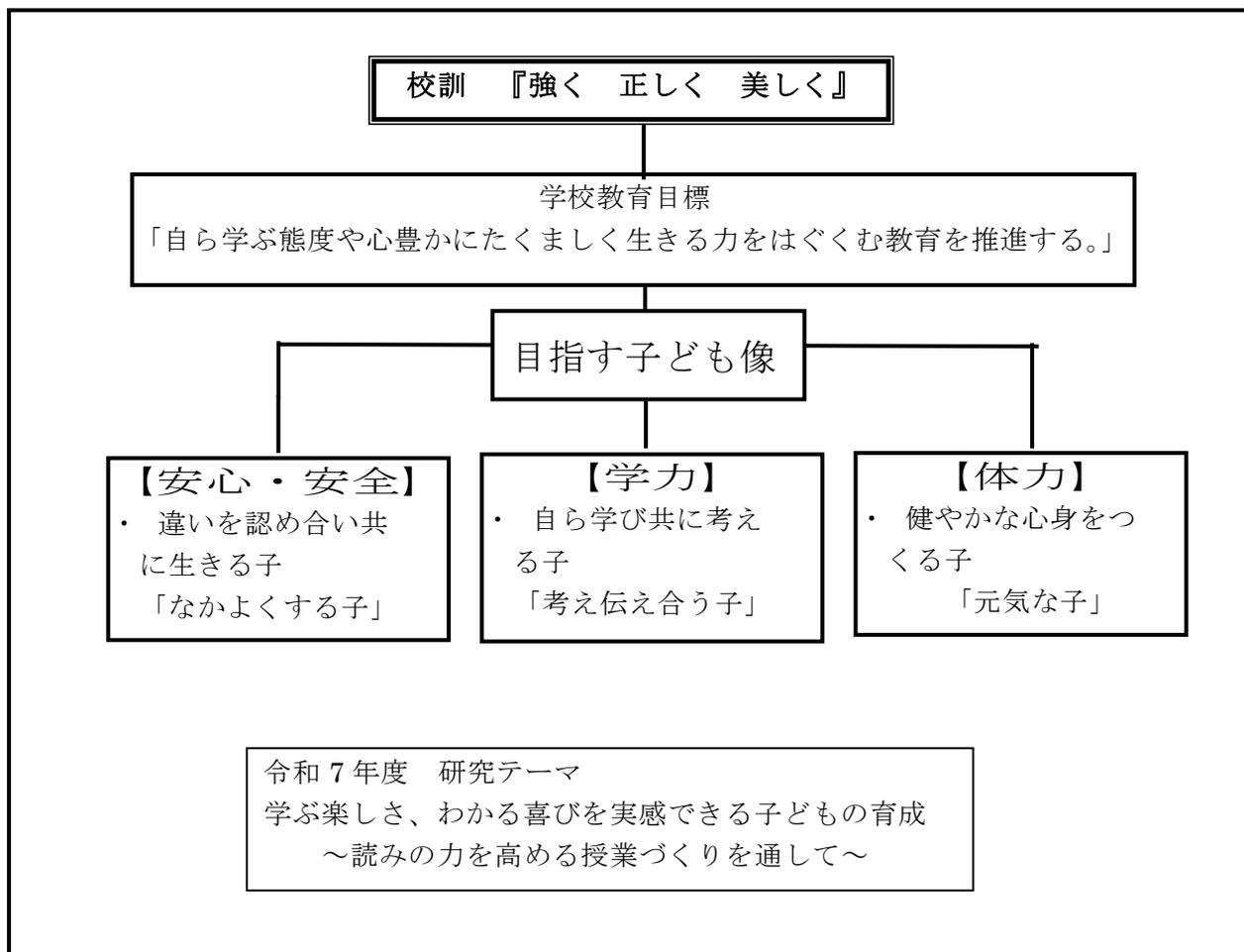
現状と課題

本校児童には、「おはようございます」「さようなら」の元気なあいさつ、「失礼します。〇年〇組の◇◇です。△△をしに来ました。」という職員室入室時の礼儀正しいあいさつ、各委員会からの聞き取りやすいお知らせの放送や集会での報告など、自分の言葉でしっかりと伝えよう、表現しようとする姿がいろいろな場面で見られる。フレンド集会や児童会で計画する「なかよし集会」「清水丘フェスティバル」などで高学年が低学年に見せるさりげない優しさ、委員会やクラブ、地区別子ども会など、様々な場面で高学年として責任をもって活動している姿など、子どもたちの一所懸命活動している姿にその着実な成長が感じられる。

これまで、表現力の育成を目標に、様々な面からの表現活動、とりわけ、話し合い活動の充実や工夫などを中心に取り組んできた成果である。授業の中で積極的に発表しようとする子や友だちの意見をしっかりと聞いている子、正しい話型が身につけていて積極的に話し合い活動を進めていこうとする力が着実に身につけている。

しかし、長く続いた感染症禍の影響や近年の社会の風潮などにより、物理的にも心情的にも人と距離をとる傾向がみられ、話し合い活動を含めた表現する場面、コミュニケーションを取り合う場面を十分にもてなくなってきた。子どもたちを見ていても、積極的に発表しようとしたり意欲的に様々な活動に関わっていったりする姿が減ってきているように感じられる。相手のことまでよく見て、よく考えて関わろうとする気持ちの余裕もなくなってきたようにも思われる。十分な成就感や達成感を得られる機会が減り、目に見えないストレスやあきらめ、不安が募っているようにも思われる。その中でも、子どもたちは可能な範囲でできる最大限の活動に一所懸命に取り組んできた。厳しい状況が続く中でも、しっかり前を向いて頑張っていこうとする子どもたちが多く、これまで取り組みが引き継がれ、子どもたちの力として確実に育ってきている成果でもある。

子どもたちが安心して、期待と意欲をもって取り組んでいけるような活動を工夫したり新たに構築していったりする必要がある。加えて、やればできるという自信や達成感を深め、自分も相手も大切にしながら共に高めあっていけるような取り組みにしていかなければならない。学習面での結果として成果が表れるようにしていくことも必要である。新たに目標設定をするにあたり、改めて学習面はもちろん、生活規律やコミュニケーション力・表現力等における土台・基盤をより強固にしていけるよう、教職員一丸となり、地域や保護者とも連携を図りながらその目標に向けて教育活動を推進していくこととする。



- 中期目標**
- 【安全・安心な教育の推進】**
- 令和7年度末の児童アンケートにおいて、「毎日学校に行くのが楽しい」の項目について、肯定的回答率を87%以上にする。
 - 令和7年度の児童アンケートにおいて、「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目について、肯定的回答率を95%以上にする。
 - 令和7年度末の児童アンケートにおいて、「学校のきまりや約束を守っていますか」の項目について、肯定的回答率を90%以上にする。
- 【未来を切り拓くため学力・体力の向上】**
- 令和7年度末の児童アンケートにおいて、「クラスの友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる。」の項目について、肯定的回答率を85%以上にする。
 - 令和7年度末の児童アンケートにおいて、「運動やスポーツをすることが好き」の項目について、肯定的回答率を86%以上にする。
- 【学びを支える教育環境の充実】**
- 令和7年度末の児童アンケートにおいて、「タブレット端末を使った授業はおもしろい。」の項目について、肯定的回答率を90%以上にする。
 - 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を65%以上にする。

【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査において「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を87%以上にする。
- 小学校学力経年調査において「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を84%以上にする。
- 小学校学力経年調査において「学校のきまり(規則)を守っていますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を93%以上にする。

学校独自の年度目標

- 令和7年度2回目児童アンケートにおいて「毎日学校に行くのが楽しい」の項目について、肯定的回答をする児童の割合を前年度に比べて1ポイント以上上げる。
- 令和7年度2回目児童アンケートにおいて「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」の項目について肯定的回答をする児童の割合を前年度より1ポイント以上上げる。
- 令和7年度2回目児童アンケートにおいて、「学校のきまりや約束を守っていますか」の項目について、肯定的回答をする児童の割合を前年度より1ポイント以上上げる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を49%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を65%以上にする。

学校独自の年度目標

- 令和7年度2回目の児童アンケートにおいて、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を前年度より1ポイント以上上げる。
- 令和7年度2回目の児童アンケートにおいて「運動やスポーツをすることは好きですか」に対して最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を前年度より1ポイント以上上げる。

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の80%以上にする(ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日を除く)。
- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を65%以上にする。

学校独自の年度目標

- 令和7年度2回目の児童アンケートにおいて、「タブレット端末を使った授業はおもしろい」の項目について、肯定的な回答をした児童の割合を前年度より向上させる。
- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を65%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

本校では教育目標「自ら学ぶ態度と心豊かにたくましく生きる力をはぐくむ教育を推進する」をもとに、昨年度までは算数科「全員がわかる できる 算数科の授業づくり」という主題のもと、誰でもわかる、できる授業を目指し、ユニバーサルデザイン化を行い、児童の基礎学力の向上を図ってきた。

本年度からは、国語科の研究を行っていく。研究主題を「学ぶ楽しさ、わかる喜びを実感できる子どもの育成～読みの力を高める授業づくりを通して～」とし、研究の柱として①国語の基本的な授業展開の定着②読み取ったことを表現していく活動③音読指導の充実の3本柱を立てて研究を進めていく。また、副題として「読みの力を高める授業づくりを通して」とし、「読むこと」を軸に、その力をさらに高めることで「話す・聞くこと」「書くこと」の活動の充実を図って取り組んできた。

「安心・安全な教育の推進」の項目においては、①学校の決まりを守り、みんなが安心安全に学校生活を送れ「学校に行くのは楽しい」と思えるようにすること②「いじめはどんなことがあっても許されないと実感し、いじめを絶対に許さない児童を育てることとし、計画的かつ系統的に人権教育や道徳教育に取り組んできたこと」の2点を目標に掲げ、その推進に努めてきた。学校のきまりや生活目標については、毎週の児童朝会で目標の確認を行い、学級でも丁寧な指導を行うことで、学校のきまりを守ろうとする児童の意識は高まってきている。また、月一回は必ず「いじめアンケート」を実施し、いじめについて早期発見に努め、聞き取りや指導を慎重にかつ迅速に行うことに努めてきた。しかし、まだまだトラブルも多く起こっているので、相手の立場に立ち考える大切さや、自分の考えや思いの伝え方について、指導を継続していく必要がある。また、専門機関との連携を図りながら、子どもの居場所づくりに取り組んできたので、今後も継続し推し進めていく。

「未来を切り開く学力・体力の向上」の項目では、①日々の学習活動の中に話し合い活動を積極的に取り入れ自己表現の機会をつくる。②自分の考えを深めたり広めたりすることができる力を養うために、授業の中で話し合い活動(ペア・グループ・全体)の場を積極的に設定してきた。しかし、なかなか結果に結びつけることができなかった。学力経年調査においても、大阪市平均を超えることができなかった。これからも教科の学習を通して集中して課題に取り組み、話を聞くことの大切さについて指導をし、学力向上に努めていく。体力向上の面では、なわとび週間や耐寒かけあし週間の日数を増やしたり、みんな遊びを充実させたり、体育科の指導に工夫を凝らしたりしてきたことで、外で元気に遊ぶ児童が増えてきた。今後、児童が体を動かすことの楽しさを実感できるよう、参加しやすい活動を取り入れたり、放送等で外遊びを呼び掛けたりしていく必要がある。

「学びを支える教育環境の充実」では、「タブレット端末を使った授業はおもしろい」と感じる児童を増やすよう ICT の整備とともに、ICT の活用率も上がってきているが、さらなる取り組みの工夫をしていく必要がある。「こころの天気」「相談機能」の使用頻度を高めていく中で、子どもの伸びたい・学びたいという意欲を高めていけるよう教職員一丸となって取り組んでいく。教職員の働き方改革として、ゆとりの日の徹底と実践、電話対応の時間の設定を実施した効果が結果として表れている。

家庭や地域との連携においては、積極的に連携をとることができた。今後も学校だよりの発行やPTA 実行委員会、地域の行事などを通して保護者や地域に本校の取り組みを周知し、理解と協力が得られるよう、さらに取組を進めていく。

大阪市立清水丘小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校学力経年調査において「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を87%以上にする。 ○ 小学校学力経年調査において「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を84%以上にする。 ○ 小学校学力経年調査において「学校のきまり(規則)を守っていますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を93%以上にする。 <p>学校独自の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和7年度2回目児童アンケートにおいて「毎日学校に行くのが楽しい」の項目について、肯定的回答をする児童の割合を前年度に比べて1ポイント以上上げる。 ○ 令和7年度2回目児童アンケートにおいて「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」の項目について肯定的回答をする児童の割合を前年度より1ポイント以上上げる。 ○ 令和7年度2回目児童アンケートにおいて、「学校のきまりや約束を守っていますか」の項目について、肯定的回答をする児童の割合を前年度より1ポイント以上上げる。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・互いに理解し、支え合いながら問題を解決していく力を育てる。 ・日々の学習活動等で課題を達成する成就感をもたせ、自己肯定感を育成する。 ・相手を思いやったり善悪の正しい判断をしたりできる道徳性を養う。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日々の学習活動に加えて、児童会行事やフレンド集会、委員会発表、クラブ発表、学年発表等、様々な発表・表現の機会、成就感をもたせる機会を工夫する。 ・人権教育指導計画や道徳教育全体計画に即して、計画的、系統的な人権教育、道徳教育を推進する。 ・令和7年度2回目児童アンケートにおいて、「自分にはいいところがある」の項目について、肯定的回答をする児童の割合を83%以上にする。 	

<p>取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いじめについて考える日」をはじめ学校教育活動のあらゆる機会をとらえ互いに理解し認め合うこと、いじめはどんなことがあっても許されないと実感し、いじめを絶対に許さない児童を育てる。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権教育指導計画や道徳教育全体計画に即して、計画的、系統的な人権教育、道徳教育を推進する。 ・いじめの早期発見および迅速に対応できるようにするため、毎月および学期に1回、いじめに関するアンケートを行う。また、アンケート結果を共有し全教職員で取り組む。 	
<p>取組内容③【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校のきまりを守り、安全に正しく学校生活を送れるように、児童の実態を的確に把握し、全教職員が日常的・組織的に指導する。 ・保護者・地域・関係諸機関等と連携をとりながら、児童虐待への対応や防災・減災、交通安全、防犯等の安全を守るための教育活動を計画的に推進する。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校のきまりや生活目標について、毎週の児童朝会で前週の反省をし、今週の目標を伝える。さらに全学級に月目標を掲示し、学級指導を行い、定着を図る。 ・スクールホーターやスクールカウンセラー、主任児童委員との打ち合わせやこどもサポートネットとのスクリーニング会議、はぐくみネットコーディネーター会議等を随時行い、情報共有しながら適切に対応できるようにする。 	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>取組み内容①</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度2回目児童アンケート「毎日学校に行くのが楽しい」の項目において肯定的回答率は86.7%（前年度から+1.4ポイント）と目標を達成している。 ・令和7年度2回目児童アンケート「自分にはいいところがある」の項目において肯定的回答率は82.4%とわずかに目標には届かなかったが、様々な発表の場や表現の機会を設定し、取組みを通して成就感を持たせることができた。また、フレンド集会や児童会行事を通じて、他学年と交流する機会をもつことで、お互いを思いやる心を育てることができた。
<p>取組み内容②</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度2回目児童アンケート「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」の項目において肯定的回答率は93.1%（前年度から+0.2ポイント）とわずかに目標には届かなかったが、割合は比較的高く、前年度より高まっていることから概ね達成しているといえる。 ・人権教育や道徳教育について年間計画をもとに取り組みを進めてきた。 ・毎月のいじめアンケートは、いじめに対する意識を高める上で効果があった。毎月実施することで、できるだけ早く問題を把握することに努めた。
<p>取組み内容③</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して生活指導部会や職員朝会、職員会議等で職員間の共通理解を図ってきた。また、児童に対して学校のきまりや生活目標について児童朝会で知らせ、全体指導、学級指導を行ってきた。

- ・令和7年度2回目児童アンケートの「学校のきまりや約束を守っている。」の項目において肯定的回答率は92.9%（前年度から+1.9ポイント）と目標を達成しているといえる。
- ・意識は高まってきた一方で、登校時刻、帽子の着用、休み時間の過ごし方などまだ不十分だと感じる部分もある。
- ・スクールポーターやスクールカウンセラー、主任児童委員との打ち合わせやこどもポータルネットとのスクリーニング会議、はぐくみネットコーディネーター会議等を随時行い、情報共有しながら適切に対応できるようにしてきた。

改善点

取り組み内容①

- ・効果のあった取り組みについては、引継ぎを確実にしながら、次年度も継続して取り組んでいく。

取り組み内容②

- ・計画の見直し・改善を図りながら、継続して人権教育、道徳教育に取り組む。
- ・引き続き、毎月のいじめアンケートを実施していくとともに、毎月確実に実施できるよう声掛けをしていく。

取り組み内容③

- ・引き続き、職員会議等の全員がいる場で教職員間の共通理解しながら、全校をあげて共通して指導を進めていく。

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を49%以上にする。 ○ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を65%以上にする。 <p>学校独自の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和7年度2回目の児童アンケートにおいて、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を前年度より1ポイント以上上げる。 ○ 令和7年度2回目の児童アンケートにおいて「運動やスポーツをすることは好きですか」に対して最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を前年度より1ポイント以上上げる。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年度の授業研究は「学ぶ楽しさ、わかる喜びを実感できる子どもの育成」をテーマにし、副題として「読みの力を高める授業づくりを通して」を設定した。国語科の読む力を高めることで、着実に基礎学力を高めていくとともに、学ぶことの楽しさやわかることの喜びを感じられるような授業展開の工夫を考えていく。 ・日々の学習活動の中に話し合い活動を積極的に取り入れ自己表現の機会をつくる。 ・児童会行事やフレンド集会、委員会発表、クラブ発表、学年発表等、様々な発表・表現の機会を設け、意欲的に表現活動に取り組みさせる。お互いを尊重し合いながら話し合いを深め、主体的に取り組みさせる。 <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを深めたり広めたりすることができる力を養うために、授業の中で話し合い活動（ペア・グループ・全体）の場を積極的に設定する。 ・各学年に応じて、お互いを認め合う相互鑑賞・発表活動・感想の交流等の表現活動を学期に1回程度行う。 ・各学年が研究授業を行ったり、各個人が公開授業を行ったりして、児童の学力を高められるようにしたり、教員の授業力の向上を目指したりする。 	B
<p>取組内容②【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力向上にかかわる体育的行事を年間2回以上実施し、児童の健康や体力の保持増進に対する興味関心を高める。 ・年度当初に実施する体力テストをもとに、各学年の実態を分析し、体力向上を目指して体育科の学習を工夫する。 <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なわとび週間や耐寒かけ足週間を各1週間以上実施する。なわとびカードやかけ足カードを使用することで、児童の意欲を高める。 ・体力テストの結果に応じ、体力向上を目指した単元を設定する。体力テスト記録カードで自分の記録の伸びを確認できるようにし、児童の意欲を高める。 	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組み内容①

- ・本年度は国語科の研究を進めてきた。各学年が実態に合わせた授業展開を工夫し、子どもらの読みの力を高められるように研究を進められた。
- ・授業の中でペアやグループでの話し合い活動を積極的に取り入れてきた。児童アンケートの「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答した児童の割合は、昨年度と比べて47.0%から43.5%と下がっている。しかし、「思う」「どちらかといえばそう思う」という肯定的回答に広げてみると、80.9%から83.3%になっており、底上げができています。
- ・学校行事やクラス運営の中で、発表・表現の機会を設け、互いに認め合い意欲的に表現活動に取り組めるように進められた。

取組み内容②

- ・かけ足タイムやなわとびタイムなど、体育的取組みを計画的に進められた。児童アンケートの「運動やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答した児童の割合は、昨年度と比べて62.9%から61.2%と下がっている。しかし、「思う」「どちらかといえばそう思う」という肯定的回答に広げてみると、82.9%から85.1%になっており、体を動かすことが好きな児童が少しずつ増えているようである。
- ・年度当初に実施した体力テストをもとに、各学年の実態を分析し、体力向上を目指して、工夫して学習を進められた。

改善点

取組み内容①

- ・年間を通して計画的に授業研究を進められた。より深い学びをしていくために、授業展開や発問を工夫する。また、子どもたちが生き生きと学習し、力を着実に伸ばしていけるように、指導法をレベルアップさせていく必要がある。
- ・指導者の授業力アップのために、研究授業だけでなく、公開授業にも参加できるような体制を整えていく。
- ・発表活動や表現活動を活発にするために、適切なタイミングで声掛けをし、互いに認め合い、主体的に取り組めるようにしていく。

取組み内容②

- ・体力テスト記録カードを活用したことで、子ども達も自分の記録や課題を意識することができ、意欲的に体育の学習に取り組めた。記録だけではなく、体を動かすことの大切さや楽しさに目を向けられるような取り組みも考えていく必要がある。

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の80%以上にする（ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日を除く）。 ○ 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を65%以上にする。 <p>学校独自の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和7年度2回目の児童アンケートにおいて、「タブレット端末を使った授業はおもしろい」の項目について、肯定的な回答をした児童の割合を前年度より向上させる。 ○ 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を65%以上にする。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ICTに関わる研修会を年間1回以上実施し、教職員の指導力の向上を図るとともに、学習者用端末を活用した授業の工夫を行う。 <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校で週3回以上は学習者用端末を活用した学習活動ができるようにする。 	B
<p>取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ノー残業デーを活用し、効率よく業務を遂行する意識を高める。また、学校閉庁日を年間4日以上設定する。残業時間軽減のため意識向上の取り組みや、保護者への周知など、教職員や保護者の意識改革を図る。 <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ノー残業デーを行事予定に明示し、それに基づいて計画的に業務を遂行できるようにする。 ・ 学校だよりやPTA実行委員会、地域の会議などを活用して保護者・地域に本校の働き方改革の取り組みを周知し、理解と協力を求める。 	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>取り組み内容①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習者用端末を用い、毎日心の天気を入力し、各教科で活用がきている。児童の全体の使用回数も増えているが、偏った機能での使い方が目立ち、効果的な使い方を模索していく必要がある。 ・ 第2回の児童アンケート「タブレット端末を使った授業はおもしろい」の項目について、肯定的な回答をした児童の割合は89.6%で、1回目の91.6%にわずかに及ばなかった。 <p>取り組み内容②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 年間を通してゆとりの日を設定し、計画的に業務を遂行できる体制を構築し、学校閉庁日も年間4日以上設定できた。 ・ 時間外勤務時間を月間45時間未満にしている教職員の割合は97.37%で、前回の79.49%よりも改善できている。 	

改善点

取り組み内容①

- ・新しいタブレットに変わったため、学校では意欲的に活用する姿が見られる。今後はタブレットを学校保管でなく、児童が日々持ち帰るための仕組みをしっかりと作っていく。
- ・chromebook に変わったため、googleclassroom を積極的に使いたい。先行して行うクラスの事例を取り入れ、活用方法を学び、校内研修を行うことで使える幅を広げていく

取り組み内容②

- ・今後も閉庁日の設定やノー残業デーの取り組みは引き続き行っていく。
- ・今年度は学校の電話の対応時間を17:15までにしたり、手紙の配布をミマモルメで行ったりした。今後も保護者や地域の理解を得ながら教職員の業務軽減を進めていく。